

探究的な学びに焦点を当てた カリキュラム・マネジメント

～校内研修プランの開発～

教職教育部 主任指導主事 藤澤 雅道
専門主事 宮下 正史、佐々木 俊秀、向井 真弓、白鳥 隼人、
岡田 泰輔

研究協力校 信州大学教育学部附属松本小学校、木祖村立木祖中学校

要旨

カリキュラム・マネジメントとは、「教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っていくこと」（総則第1章第1の4）である。本研究では、研究協力校等におけるカリキュラム・マネジメントの校内研修の実践を基に、効果的なワークシートの活用方法を検討し、校内研修のモデルとなるプランを作成した。

I カリキュラム・マネジメントの三つの側面

- (1) 児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと。
- (2) 教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと。
- (3) 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと。



Ⅱ 協力校等における校内研修から見た成果と課題

| | | |
|---|---|--|
| <p>研修事例 1 義務校長マネジメント研修</p> <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状を評価し、教育目標を具体化する。 <p>(シート 4 とシート 1)</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な手順としての研修ワークシートは有効である。 ・協働ワークショップ型の研修で新たな知見が生まれる。 | <p>研修事例 2 木祖中学校</p> <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科等横断的に年間計画を考える。 <p>(シート 4)</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員、生徒が共有し持続的に見直すことができるように、成果物を職員室前廊下に掲示した。 ・教科同士を内容でつなげるようとして、迷う姿があった。 | <p>研修事例 3 附属松本小学校</p> <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育目標をもとに目指す児童の姿を具体化して考える。 <p>(シート 1)</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育目標を具体化することで、目指す児童の姿を教職員が共有できた。 ・研修のまとめで目指す姿を一つに絞るのかどうか先生方が迷った。 |
|---|---|--|

Ⅲ 成果と課題から見てきた校内研修を効果的にするポイント

- ① 研修のねらいとまとめ方が一致していることが大切である。研修担当者は、ワークシートをもとに校内研修のゴールをどの段階に設定するのかを事前に明確にしてから研修を企画するとよい。
- ② ワークショップ型研修を取り入れ、言語化・図式化してやり取りする場面を設けて共有化を図る。
- ③ シート 4 を使い年間計画を立てる際には、内容だけでなく、育てたい資質・能力をもとにして各教科等をつなげる。
- ④ 研修後は、成果物を日常的に目に触れるよう職員室に掲示するなどして、教職員が皆で持続的に更新していけるようにする。

Ⅳ 各シートの用途

| シート番号 | 用途 |
|-------|--|
| 1 | 教育目標をもとに、育てたい児童生徒の姿を明確にする際に使用 ※60分の校内研修プランを作成 (PDF ダウンロード可) |
| 2 | 教育目標をもとに総合的な学習 (探究) の時間の目標を設定する際に |
| 3 | 校内外の資源を職員間で共有する際に使用 |
| 4 | 教科等横断的な視点から年間計画を作成する際に使用 |
| 5 | カリキュラム・マネジメントへの取組を評価する際に使用 |